

第 14 回 呉西圏域ビジョン懇談会 会議録

日 時：令和 8 年 2 月 5 日(木) 17 時 00 分～18 時 00 分

場 所：高岡市生涯学習センター 4 階ホール

○開会挨拶

(とやま呉西圏域連携推進協議会 会長)

○報告

- ・ 呉西圏域 令和 7 年度の取組について
(事務局による資料説明)
- ・ 第 3 期都市圏ビジョン最終案について
(事務局による資料説明)

○意見交換

(1)新たな交流・観光施策の展開について

(委員)

学会を開催するにあたり、呉西地区には 1,000 人規模のコンベンション施設がない。会議後のエクスカージョンは呉西地区に行く人が多いため、コンベンションを開催するための環境を整備してほしい。学会を開催できる施設やエクスカージョンの候補地など情報があれば教えてほしい。北陸新幹線開通後、富山への関心が高まっているのでチャンスだと思っている。

(委員)

県が整備を進めているテクノドーム別館はホール機能を有し、1,200 人収容可能と伺っている。旧館を含めて 2,000 人規模に対応できる。ただ呉西圏域には宿泊施設が決定的に不足しており、エクスカージョンの受け入れは可能ではあるが、宿泊先がないためにコンベンションに手を上げられない現状がある。高岡市内には 2,000 人のキャパがあるが分散しており都合が悪い。各市でホテルの誘致に取り組むべきではないか。また、北海道では 4 つの地区に分けて受け入れることをしている例があるので、呉西地区でもその方式も含めて検討いただきたい。

(委員)

呉西エリアの人流データを調べ、それを踏まえたうえで観光コースづくりに取り組むべき。南砺市では、金沢からの流れが多く、金沢のオプションとして五箇山に来訪し、和紙す

き体験などをされるが、特に餅つき体験が好評。そのようなエリア内の魅力を生かした周遊コースを作ってほしい。また、先日のように射水市・氷見市の両市長が台湾でトップセールスをされたことは非常に良いこと。呉西6市でも連携してトップセールスによるPRをしてもらいたい。

(委員)

北陸新幹線の延伸で関西・関東方面からの人の流れを汲んだ事業が多いが、今一度、東海方面も考慮した事業にも取り組んではどうか。

(委員)

2029年に城端線・氷見線があいの風とやま鉄道に移管され、新高岡駅から氷見・城端に直接乗り入れることができるようになるなど利便性向上が図られるので、そのことも観光施策に盛り込んでほしい。

(委員)

呉西圏域の連携が大きなテーマではあるが、例えば6市それぞれにある観光協会是个々の力を足して「1+1+1+1+1+1=6」にすることを望んでいるものではないと考えており、これまでその議論がなされていない。都市圏ビジョンが3期目に入るが、連携するにあたっての現状や不都合など、これまでもシナジーを生み出すファクトを検証していない。KPIの設定も過去の上昇率をそのまま適用しているが、それでは自然増の分なのか取り組みの成果なのかがわからず、目標設定のロジックが見えてこない。富山出身の安宅和人さんが「イシューからはじめよ」と言っているように、イシューを明確にすべきだと思う。

(2)多様な人材が活躍できる環境づくりについて

(委員)

色々な施策を立てられているが、呉西圏域の特色は何なのか、他地域と異なるものは何なのかと疑問に感じている。アルミに関しては現在リサイクルにこだわって取り組んでおり、全国的に見ても回収・分別・溶解・ casting・加工というすべての環境が整っているのは富山県のみ、特に呉西エリアに集中している。アルミ缶のリサイクル率は高い一方で、菓子類や薬など様々なパッケージに使われているアルミは可燃ごみとされることが多い。呉西地区にはアルミから水素を取り出すことに成功した企業があったり、水素の流通システムを確立したりするなどの動きがあり、ごみからエネルギーを取り出すという取組ができれば、呉西地域がゼロエネルギーを目指す地域として若者や外国人などいろいろな人材が携わることにつながる。

(委員)

ここ数年、資源管理に取り組んでおり、その効果でクロマグロが増え、漁獲枠を超えた分を放流している現状がある。富山県ではとやま出会い応援アプリ「TOYAMA goen」の導入企業を募集している。小矢部市をはじめ各自治体で婚活支援に取り組んでいるが、各市単独ではなく、呉西圏域としても 30 年先を見越した人口減少対策の取組を連携して進めてもらえないか。

(委員)

働き手の課題について、高岡市には約 4,800 人の外国人が住んでいるが、日本で働きたいと考える外国人は多いのに、日本語や文化を学べる環境がない。呉西地区に外国人を教育できる場があればよいと考える。

(委員)

多様な人材が活躍できる環境づくりは県としても課題として認識しており、県の総合計画の改定にも盛り込んだところ。人口減少が避けられない中、交流人口、関係人口、外国人についても考える必要がある。県ではスポットワークの取組も進めており、射水市と介護分野のスポットワークの実証を行ったが、石川・長野・東京などの県外から何かのついでに来て働く人が大変多く、労働人口は流動していることが改めて分かった。域外からの人を呼び込む取組は南砺市や小矢部市でも祭りへの参加などで取り組まれているが、国でも地方創生戦略の中で、関係人口を地域の活力として取り込むふるさと住民登録制度を始めようとしている。居住地を選ぶ際、自治体単位ではなく生活圏として移住先をとらえるので、県では大きすぎ、市では小さすぎる。その点で呉西圏域の取組は理にかなっている。広域連携の取組については県としても国に財源確保を働きかけるとともに、具体的な課題解決に向けて、しっかりこの先も連携してまいりたい。

○第三期都市圏ビジョン最終案の承認について

(異議なし)

○閉会挨拶

(とやま呉西圏域連携推進協議会 副会長)

○閉会

(終了 18:00)